

「第10回 邑の映画会」にあたって

秋深まる候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

「邑の映画会」は、群馬県の平成20年度「地域における映画上映推進事業」に採択され、昨年第9回も、皆様ご協力のもと実施出来ました。

群馬県・群馬県教育委員会では、前橋市出身の小栗康平映画監督を講師に迎え、小学校で映像教育を行っていました。テレビやゲームなど、スイッチを入れれば向こうから飛び込んでくる映像について、言語を学ぶように、作られたものである映像の事を、学ばなければならないと考えての事でした。ホールもない映画館もないこの町で、中野東小学校が映像教育の指定校になり、その後子ども大人の有志による実行委員会が立ち上がり映画会を開催してきました。今年は、29年度邑楽町「協働まちづくり事業」として、邑楽町教育委員会と主催で行われます。

今回のアニメーション映画は、《日本のアニメーション映画 100年》として特集を組みました。『なまくら刀』は、1917年現存する最古の作品として発見され、デジタル復元されました。100年も前にこのようなコミカルな映像の発想があったことに驚かされます。この貴重な作品をはじめとして、ディズニー日本版として製作された『動絵狐狸達引』。また、70余年の歴史とともに、教育、地域に、豊かな「映像教育」を行った学研の代表作『セロひきのゴーシュ』。日本を代表するアニメーション映画監督川本喜八郎作『花折り』は、壬生狂言をもとに自ら製作した人形の見事なまでの表現です。岡本忠成監督『鬼がくれ山のソバの花』との2作は、日本に根付く人々の暮らしそのものを描き、子らに伝えたい大いなる作品として、選択いたしました。子どもたちに届けましょう。

劇映画は、スペインの映像作家、ビクトル・エリセ監督『ミツバチのささやき』を上映します。顧問小栗康平監督の講演、座談会と共に、楽しみましょう。

今後とも、世界の素晴らしい映画を子どもたちに届けるよう、皆様どうぞ一緒に活動していただきますことをお願い申し上げますと共に。多くの方々に、届けたい。世界には、素晴らしい映画が、在ると。